## 1 自己評価及び外部評価結果

# (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

#### 【事業所概要(事業所記入)】

	事業所番号	3071300630		
	法人名	社会福祉法人 愛光園		
	事業所名	愛光園 第2グループホーム(光)		
所在地 和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野 1386				_
ſ	平成25年3月19日			

### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku\_jp/30/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2010\_022\_kani=true&JigyosyoCd=3071300630-00&PrefCd=30&VersionCd=022

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名  一般社団法人和歌山県認知症支援協会			協会
	所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F	•
	訪問調査日	平成25年2月20日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方には閉塞感をなくしていただけるよう外出(買い物、ディサービスでの交流)機会つくるよう にしている。

近隣には季節の野菜や果物畑があり、四季をかんじていただけるような散歩やレクりェーションを心がけている。 入居者の認知症の予防、健康管理など医療機関や家族様と連携をとり、安心して生活して頂けるようにしています。

事業所は、一階二階のユニットからなっており、建物内は、清潔感があり明るく、各居室にトイレが設置されている。居室は広く、個々の馴染みの品が持ち込まれ、家庭の延長のように居心地良く整えられている。入居者・家族の希望を聞き入れるよう心がけて、一人ひとりに添ったケアを提供している。特に食に対しての取り組みに力を入れ、準備、調理、片づけ等もケアの一環として位置付け、生活の中でのリハビリになる工夫をして、職員と共に食事をおいしく楽しむことができる支援をしている。

#### Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の |職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 1. ほぼ全ての家族と 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる 63 ている 3. 利用者の1/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) (参考項目:9.10.19) 4. ほとんど掴んでいない 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある O 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 1. 大いに増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが |係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 2. 少しずつ増えている (参考項目:38) の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:4) 4. ほとんどいない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 職員は、活き活きと働けている 2. 利用者の2/3くらいが 2. 職員の2/3くらいが 59 表情や姿がみられている 66 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 67 足していると思う 60 る 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスに 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おおむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

# (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
己	部	- 現 日 -	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.I		に基づく運営			
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	「その人らしく活き生きと」という理念をつくり、目のつくところへ掲示している。	「その人らしく」とは一人ひとりの性格や意思を尊重し本人自身の時間を大切にすることであると、全職員が認識し、意思統一できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	近くの公民館での交流会に参加したり、近く のスーパーへ買い物に行ったりしている。	保育園から園児の訪問を受けている。地域 住民の訪問はほとんど無いが、散歩に出か けた時に近隣の人と出会うと畑で作った野菜 を頂く等の関係ができている。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	キャラバンメイトである職員が認知症サポーター養成講座等開催することもあったが最 近は予定がない。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	定期的に開催を心がけているが十分とはい えない。	年2回、家族・町の担当者、社会福祉協議会職員・地域包括支援センター職員らの参加で行われている。今後、グループホームとして地域に還元できることについても話し合い、運営に反映させようとしている。	
5	•	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議(町主催)等への出席で関係を構築しようとしているが十分とはいえない。	事務連絡以外のやりとりはみられず、現在 は、運営推進会議だけの関わりである。	運営推進会議を足掛かりに、積極的 に出向くなどして、協働関係を築き、 連携が深まることを期待したい。
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる		入居者の自由な暮らしの支援をするなかで、 安全の確保のためのリスクも考え、やむを得 ず玄関に施錠している。	
7			管理者は虐待を見過ごすことがないように 注意していが、同法に対してまなぶ機会が ないのが現状。		

	【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名 : 光					
自己	外	項目	自己評価	外部評価	西	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	とき学ぶ機会があるが、その他の職員は機			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点について尋ね、理解して頂けるようにしている。			
10		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	る。出された意見については検討したうえで 反映させるようにしている。	家族の訪問時に、何でも話してもらえるよう 配慮して対応している。何でも話せる雰囲気 を心がけ、入居者から出された要望について は速やかな対応で改善の取り組みを行って いる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時に聞き取り、反映させるようにしている。	全員が常勤職員という勤務態勢でまとまりがあり、共通認識を持って意見を共有しやすい。管理者はミーティングで、職員の意見を聞き入れ、活かしていけるように調整を図っている。		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	翌月の勤務表作成時に休みや勤務の希望 があれば出来るだけ応えるようにしている。			
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	園内の研修は参加しているが、外部の研修 に参加する機会はあまりないです。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	常日頃連絡はとっていないが研修先などで 情報交換する程度です。			

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:光 自己評価 外部評価 自外 項目 己一部 実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ 利用前に本人様や家族様に会い歯を聞き と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 情報として役立てている。 安心を確保するための関係づくりに努めている 16 〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている 利用前には十分話をし、説明したうえで関 こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 係づくりに努めている。 づくりに努めている 〇初期対応の見極めと支援 17 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ 出来る限りコミニュケーションを多くとること の時」まず必要としている支援を見極め、他の で把握することにしている。 サービス利用も含めた対応に努めている 〇本人と共に過ごし支えあう関係 18 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 出来る事、したい事を把握し、一緒に出来る 暮らしを共にする者同士の関係を築いている ことはして頂けるようにしている。 〇本人を共に支えあう家族との関係 19 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 面会や行事参加時に発言しやすい雰囲気 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 をつくり、関係を築いている。 えていく関係を築いている

20 (8) 〇馴染みの人や場との関係継続の支援

〇利用者同士の関係の支援

支援に努めている

21

本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場

所との関係が途切れないよう、支援に努めている

利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ

ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような

法事や墓参り・旅行等、家族の協力で関係が

維持できるよう支援している。入居者同士

が、以前から知り合いである場合も多く、共

通の知人や場所などの話題も豊富で、会話 の中での関係性も大切にして支援している。

面会など立ち寄りやすい雰囲気をつくってし

定期的に会議の場をもち利用者どうしの関

係が把握できるようにしている。

る。

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:光 自 外己 部 自己評価 外部評価 項 目 部 実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 22 ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 当ホーム、法人で対応できることはおこなっ 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 ている。 の経過をフォローし、相談や支援に努めている Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 23 (9) 〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 |センター方式を利用し、本人の想いを繁栄 本人からの聞き取りが充分でないときは、行 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し 「できるように努めている。本人の意見がでに」動や表情から汲み取り、家族からも情報を得 ている くい場合は本人本位で検討している。 て、希望に繋げるように努めている。 〇これまでの暮らしの把握 24 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 |家族様の話を参考にしたりセンター方式を 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努記入してもらったりして、把握できるように努 めている めている。 ○暮らしの現状の把握 25 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する |定期的に利用者様の状態について会議の 力等の現状の把握に努めている 場をもち、介護者の意見交換のもと状態把 握につとめている。 26 (10) 〇チームでつくる介護計画とモニタリング 状態の変化がないときも、3~4ヶ月ごとのモ 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 家族様や本人の希望を反映できるよう情報 ニタリングで確認しており、状態変化があれ について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 収集し、職員で話し合い介護計画につなげ ばカンファレンスを行い結果をもとに介護計 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 ている。 画を作成している。 した介護計画を作成している ○個別の記録と実践への反映 27 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を パソコンソフトに入力してあり、いつでも確認 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら できるようにしている。 実践や介護計画の見直しに活かしている 28 〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズ 当施設で対応できないことは、他の事業所 に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 や医療機関を中心に連携をとっている。 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる

		<u>事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニッ</u>			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	西
	部	,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源としては散歩と買い物の中でのふ れあい程度です。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受 診などもおこなっている。	認知症の専門医である事業所の協力医が、 家族の納得の上かかりつけ医となっている。 受診が必要であれば、状況に応じて家族が 対応し、不可能な時や緊急時は職員が代行 している。定期的に歯科の往診もある。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	連携をとっている医療機関の看護師に相談 し受診など受けやすい体制をとっている。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時ADLなどの諸情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	ターミナルケアなどについての指針をまとめ、家族様に説明している。	ターミナルケアについては、法人との連携ができており、入居時に指針を説明し、必要になれば相談して確認しながら取り組んでいる。できるだけ本人の意向にも添った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しているが訓練 はできていない。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は行なっているが地域との協 力体制等は築けていない。	防災避難訓練が行われ、火災通報報知器で 消防署との連絡の仕組みができている。水 害の避難経路の確認がされ、備蓄は法人全 体で準備されている。	地域との繋がりを深める中で、災害対策の理解を求め、協力体制を築いていける工夫を期待したい。
33	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける		消防署との連絡の仕組みができている。水 害の避難経路の確認がされ、備蓄は法人全	策の理解を求め、協力体

	【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:光					
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>	
	部	, r	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには注意をし、丁寧な対応を心がけています。	丁寧な言葉かけで信頼関係を築きその人ら しさを大切にしている。排泄への支援では、 羞恥心にも配慮し、プライドを傷つけないよう 支援している。		
37			会話のなかで利用者の希望を見つけれるようにしている。自己決定については正しい判断をできる入居者な方は少ないです。			
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの行動を把握し本人の ペースで過ごして頂いています。			
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	季節に応じた衣類をきれるように援助している。			
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者と職員がいっしょに作り、食べ後片付 けも行なって頂いている。	材料が無駄にならないよう一週間のメニューを相談しながら決め、入居者と調理・片付けをともに行っている。一人ひとり使い慣れた 箸や茶碗・湯のみを使い、職員も同じテーブルにつき、食の楽しみを支援している。		
41		応じた支援をしている	献立は過去に栄養士が作った献立を参考 にしている。水分摂取表をつくりチェッツクし ている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後に声かけや介助により口腔ケアに努め ている。			

		<u>事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニッ</u>			
口即	外	項目	自己評価	外部評価	西
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作りパターンを把握できるように して、声かけ誘導を行なっている。	本人の能力を見極め、場面に合わせて失敗 がないように自立を支援している。本人の態 度やしぐさを読みとり、個々に合わせた形で 誘導を行っている。	
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分やヨーグルトを摂取し毎日、体操し体調を整えている。それでも排便のない方は服薬にて排便を促している。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっておりその中で利用 者の方の希望に沿えるようにしている。	毎日、入浴が行われ、順番等、希望に添える よう配慮し、一人ひとりの気持ちに合わせて 支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動し続けることがないよう、適度に休憩を とってもらい、就寝時には適温に調整してい る。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬剤情報はファイルに 入れ、薬剤情報を常に確認できるようにして いる。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出機会をつくり、買い物や散歩などで気分 転換をはかっています。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望による外出、外泊は家族様の付き添い があればいつでもできます。	本人の希望があれば一緒に買い物をしている。外出による環境変化が不穏状態を引き起こさないよう、戸外に出るときは自然環境が多い場所を選び、落ち着いて楽しめるよう取り組んでいる。	閉じこもりがちにならないように、戸外 に出る機会を多く持てるようにして、気 持ちよく生き生き過ごせる工夫を期待 したい。

		事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニッ	卜名∶光		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	お金の管理ができない入居者の方が多く、 身の回りの物を買いたい時は、いっしょに出 かけ預かっているお金で買い物を行なって いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはいつでもかけれるよう にしている。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には混乱をまねくような物は置か ないようにしています。	太陽の光を充分に浴び、静かな環境で清潔感があふれている。広い共用スペースの中で、個々の行動パターンに合わせて、居心地よく過ごせる配慮がされている。エアコンの風が直接あたらないように手作りで工夫している。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	ソファーや和室を設置して気のあった方が ゆったりと過ごせるようにしています。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	入居時に家族様に説明し、愛用の品物があ れば持ってきてもらうようにしている。	入口は格子で長屋風の作りで、入居者自身の手作りの表札を掲げている。使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、めだかの飼育や思い出の写真、活躍していた頃の作品等、一人ひとりの個性があり居心地の良さが伺える。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	キッチンは対面式になっており、見守りしな がら調理して頂いたり、共有スペースも見わ たせ安全を確保するよう努めている。		